

みどりみらい ぐんじとしのりの議会報告

2002/09/14 Vol. 108 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX
45-8362

E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

印西市議会/平成 14 年第 3 回定例会報告 (1)

いつもお世話になっております。印西市議会(9月定例会)は、現在、一般質問、議案の審議を行い、26日の最終日を残して休会中です。今回は、9月議会での私の一般質問と市当局の回答を中心にご報告をさせていただきます。

9/6(金曜日)に、個人質問に立ちました。以下、市当局の回答です。

3. ジョイフル本田の進出と道路政策について

3-1 ジョイフル本田の進出決定後に「市では関係の各課課長による検討会を設けて、何度か現地調査も行っている。今後は、当面、対応が必要な場所はどこか、中長期的に対応が必要なところはどこか考えて行きたい。」とのことであったが、市として対応/対策が必要な場所を検討したのか。

(回答/市長) ジョイフル本田の進出に伴う、交通政策についてお答えします。

まず、交通量の増加が見込まれる道路の当面の対応策としては、交通安全施設の設置、道路改修を行う予定でございます。中長期的には、市道 00-031 号線(牧の原~小林)の早急な整備が必要と考え、現在、補助金の確保並びに用地買収について積極的に進めているところでございます。

4. 牧の原駅圏の活性化について

4-1 医療施設の誘致について - どのような進捗か

(回答/保健福祉部長) 現在、原4丁目1番に計画されております、診療所についてお答え致します。施設概要ですが、施設全体面積として、敷地は約560平方メートル、施設数は、1区画で建築延べ面積は約120平方メートル、駐車場については約15台程度を予定されております。今後の予定ですが、内科・小児科等の医師を8月下旬から9月上旬にかけて募集し、建物については、12月に着工を予定し、来年の4月頃に完成する予定となり、早ければ7月に開院ができるのではないかと聞いております。

(ぐんじとしのりより) この件に関しては、印西市医師会、千葉県企業庁、公団3者にて、「原1番街への医療施設」開設に関しての会議を開き、おおよその日程の通り、進むようです。具体的な設置場所としまして、原小学校西側にて、現在工事が行われている場所の車両出入口がアバンドーネ原1番街の出入口となり、その出入口そばに、診療所、および駐車場が建設される予定となっております。

4-2 牧の原駅圏活性化研究会について - どのような進捗か

(回答/総務部長) (仮称)牧の原駅圏活性化研究会の設立につきましては、印西牧の原駅北側等に広がる一団の土地の活用が大きな課題となっており、また、この度の再見直しの方針にも研究会の設置が示されていることから、市といたしましても、機会があるごと、新住事業者に対しまして、この研究会を1日でも早く、立ち上げていただくように働きかけているところでございます。研究会の進捗ということでございますが、「現在、委員の人選や委託先の選定を含め、この会の立ち上げに向けて準備を進めているところで、11月頃までには、第1回目の研究会を開催したい」と新住事業者から聞いております。

(ぐんじとしのりより)この回答をうけまして、市に対しては、活性化研究会に参加し、情報を収集し、市民の声を反映させてほしい旨を伝えると共に、牧の原住民の参加も新住事業者に希望することを伝えて欲しい旨、要望しました。(印西市のことなので、印西市が参加するのは「当然」と思われている方も多いと思いますが、千葉ニュータウンでは、「重要施策は県幹部らで構成する決定機関(千葉ニュータウン事業管理委員会)で決め、地元自治体はそれに従っていただけ」という信じられない話が最近になって事実としてわかってきました。)

「市町村合併」どう考える？(4)

6月19日に続いて、7月29日に近隣の5自治体の正副議長が集まり、市町村合併についての懇談会が開催されました。(正式な名称を「印西地区正副議長合併問題協議会」とすることに決定した、とのことです。)今回、会議の要約を入手いたしましたので、今、話題の「市町村合併」についての5自治体の意見を抜粋して、ご紹介します。

<栄町> 栄町議会合併研究会を7/8に開催。東京で合併に関するシンポジウムが開催されたために、第3回の研究会の参考とするために幹事3人が参加。

<白井市> 6/18に全議員(24人)にて、市町村合併問題特別委員会を設置/開催。財政面/施設面/サービス面について、それぞれの分科会に分かれて調査・研究。11月頃をめどに結論を出す予定。また、白井市側も11月頃にシンポジウムを開催予定。

<本埜村> 全員協議会開催のたびに合併問題を議論しているが、具体的な方向まで至っていない。9月をめどに特別委員会を立ち上げる考えがある。全世帯に対して意識調査済

<印旛村> 県市町村課を招いて講演会を開催。

<印西市/9月6日最新状況> 住民意識調査の自由回答欄は、11月にはまとまる予定。9月16日 電機大学福田ホールにてシンポジウムあり。(13時より) 全員協議会開催のたびに合併問題を議論しているが、具体的な方向まで、至っていない。(早急に法定協議会の設置を求める議員と合併は市民に十分な情報を渡し、議論を盛り上げてからでも合併は遅くないとする議員が並行線のまま。私の立場は後者。)

(ぐんじとしのり より)

合併問題を議論するたびに、「自治の本質とはなんだろうか？」考えます。この市町村合併は地域の行政体制の枠組みだけの問題ではなく、日本の国そのもののありようをも規定する、国家の根幹にかかわる国民的課題ではないのでしょうか。

地域の自治は国のあり方にも極めて大きな影響を与えます。ごみや環境、福祉など自分の地域の身近な問題について見識を持った市民が育つこと、それは国全体の中でも成熟した市民社会に生きる国民が生まれることになります。つまり、健全な地方自治の存在が国全体の真の民主主義の実現に重要な役割を果たすのです。いうなれば、住民が生き生きとした暮らしを実現するための自治のあり方、つまり自治の本質を多面的に議論し、それを実現していくことが必要だと私は考えます。

国では、2005年3月までに行われた市町村合併について財政面を中心としてアメというべき、各種の優遇措置を準備しており、自治体の体質変化の方向として「市町村の合併」を選択させようとしています。しかし、今議論されている市町村合併が、そもそもあるべき自治の姿について、十分な議論をつくした後に行われたとは言い難いのではないのでしょうか。単に規模を拡大すれば自治体の運営の効率性が得られ、専門性が高まるという安易な判断でその方向付けがなされたのではないのでしょうか。それは、地方制度調査会、経済財政諮問会議や地方分権推進会議などの場で、最近やっと、自治体のあるべき姿が論じられていることから伺えると思います。

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と一緒に考えていきたいと思っております。よろしくご意見申し上げます。ぐんじとしのり